

5. 医療従事者数

職 種	従事者数	備 考 (資料等)
	人	
医 師	270,371	平成16年末届出者数
歯 科 医 師	95,197	「医師・歯科医師・薬剤師調査」
保 健 師	46,024	平成16年末従事者数
助 産 師	26,040	「医療施設（動態・静態）調査・病院報告」及び
看 護 師	797,233	「衛生行政報告例」による推計
准 看 護 師	423,296	
診療放射線技師	58,006	
理学療法士	41,271	
作業療法士	26,070	
臨床検査技師	154,501	
衛生検査技師	133,489	平成16年末免許取得者数
視能訓練士	5,833	
臨床工学技士	18,655	
義肢装具士	2,969	
救急救命士	27,365	
言語聴覚士	8,879	
歯科衛生士	79,695	
歯科技工士	35,668	
あん摩マッサージ指圧師	98,148	平成16年末従事者数
はり師	76,643	「衛生行政報告例」
きゅう師	75,100	
柔道整復師	35,077	

6. 養成施設等の現状

(平成17年4月1日現在)

養成種別	厚生労働大臣指定		文部科学大臣指定等		計	
	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
	か所	人	か所	人	か所	人
医師	—	—	80	7,625	80	7,625
歯科医師	—	—	29	2,667	29	2,667
保健師	30	1,080	143	10,029	173	11,109
助産師	35	850	111	7,034	146	7,884
看護師	761	35,092	332	17,379	1093	52,471
准看護師	*271	13,003	24	1,045	295	14,048
歯科衛生士	121	6,535	25	1,505	146	8,040
歯科技工士	55	2,265	15	570	70	2,835
診療放射線技師	16	1,062	24	1,270	40	2,332
理学療法士	138	7,327	52	1,721	190	9,048
作業療法士	119	5,305	43	1,368	162	6,673
臨床検査技師	27	1,544	8	530	35	2,074
視能訓練士	16	682	6	270	22	952
臨床工学技士	31	1,717	5	200	36	1,917
義肢装具士	6	148	—	—	6	148
救急救命士	30	2,010	5	325	35	2,335
言語聴覚士	41	1,625	11	440	52	2,065
あん摩マッサージ指圧師	5	300	83	765	88	1,065
はり師・きゅう師	70	4,809	5	369	75	5,178
あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師	26	1,256	58	588	84	1,844
柔道整復師	75	6,840	3	209	78	7,049

- 注1. 医師の文部科学大臣指定等には、防衛医科大学校を含む。
 2. 医師、歯科医師は募集人員であり、その他は1学年定員である。
 3. 准看護師の※印は都道府県知事指定である。

7. 研修医マッチングの結果について

1 研修医マッチングの結果の概要

- 参加者のうち希望順位を登録した参加者8,472名のうち、8,100名について組み合わせが決まった。(マッチ率：95.6%)
- 組み合わせの決まらなかった参加者(アンマッチ者)372名については、臨床研修プログラム検索サイト(URL: <http://www.reisjp.org>)の空席情報等を利用して個別に研修先と交渉。

2 大学病院と臨床研修病院

- 大学病院と、臨床研修病院のマッチ者の比率は、48.3%対51.7%となり、前回のマッチングに引き続き、大学病院から地域の臨床研修病院に研修医が流れる結果となった。また、初めて地域の臨床研修病院のマッチ者数が大学病院を上回った。

3 都道府県別マッチ者数

- 前回のマッチング結果に比べ、東京都、京都府、福岡県等で研修医の減少が見られたものの、あまりはっきりした傾向は出ていなかった。しかし、旧制度である平成15年度の採用実績と比較すると、大都市圏から地方に研修医が流れている傾向が見られる。

表 研修医マッチングの結果の概要

	平成17年度					平成16年度				
	臨床研修病院 注1)		大学病院 注2)		合計	臨床研修病院 注1)		大学病院 注2)		合計
参加病院数	911	89.7%	105	10.3%	1,016	852	89.1%	104	10.9%	956
参加プログラム数	1,005	79.7%	256	20.3%	1,261	943	81.4%	215	18.6%	1,158
参加者数	—	—	—	—	8,660	—	—	—	—	8,566
募集定員 ①	5,419	48.3%	5,809	51.7%	11,228	5,058	45.5%	6,064	54.5%	11,122
マッチ者数②	4,184	51.7%	3,916	48.3%	8,100	3,784	47.3%	4,216	52.7%	8,000
空席数 ①-②	1,235	39.5%	1,893	60.5%	3,128	1,274	40.8%	1,848	59.2%	3,122
1位希望者数	5,392	63.6%	3,080	36.4%	8,472	5,084	60.6%	3,310	39.4%	8,394

注1) 単独型又は管理型臨床研修病院が管理している研修プログラムについて集計したもの。
協力型臨床研修病院、協力型相当大学病院と病院群を構成している場合もある。

注2) 単独型又は管理型相当大学病院が管理している研修プログラムについて集計したもの。
協力型臨床研修病院、協力型相当大学病院と病院群を構成している場合もある。

研修医マッチングの結果 (参加病院の所在地による全国分布)

都道府県	平成15年度 採用実績①	平成16年度 マッチ者数②	平成17年度 マッチ者数③	増減 ③-②	増減 ③-①
北海道	288	333	305	△ 28	17
青森県	56	49	53	4	△ 3
岩手県	38	70	74	4	36
宮城県	88	106	112	6	24
秋田県	61	62	69	7	8
山形県	56	59	55	△ 4	△ 1
福島県	79	68	82	14	3
茨城県	85	101	115	14	30
栃木県	119	129	128	△ 1	9
群馬県	119	94	102	8	△ 17
埼玉県	118	160	192	32	74
千葉県	268	289	302	13	34
東京都	1,707	1,350	1,347	△ 3	△ 360
神奈川県	404	592	601	9	197
新潟県	89	98	91	△ 7	2
富山県	59	54	66	12	7
石川県	95	89	74	△ 15	△ 21
福井県	48	32	45	13	△ 3
山梨県	54	46	45	△ 1	△ 9
長野県	104	118	106	△ 12	2
岐阜県	116	90	101	11	△ 15
静岡県	109	153	187	34	78
愛知県	436	519	515	△ 4	79
三重県	77	56	75	19	△ 2
滋賀県	83	76	68	△ 8	△ 15
京都府	411	326	298	△ 28	△ 113
大阪府	689	632	678	46	△ 11
兵庫県	310	301	322	21	12
奈良県	101	83	66	△ 17	△ 35
和歌山県	68	61	68	7	0
鳥取県	51	44	32	△ 12	△ 19
島根県	30	42	61	19	31
岡山県	146	153	160	7	14
広島県	181	148	133	△ 15	△ 48
山口県	93	72	67	△ 5	△ 26
徳島県	68	38	51	13	△ 17
香川県	50	50	43	△ 7	△ 7
愛媛県	65	76	72	△ 4	7
高知県	47	47	45	△ 2	△ 2
福岡県	546	530	509	△ 21	△ 37
佐賀県	58	63	48	△ 15	△ 10
長崎県	105	107	108	1	3
熊本県	115	109	97	△ 12	△ 18
大分県	54	49	49	0	△ 5
宮崎県	50	36	37	1	△ 13
鹿児島県	91	99	101	2	10
沖縄県	81	141	145	4	64
	8,166	8,000	8,100	100	△ 66

8. 医師臨床研修費補助金について

厚生労働省医政局医事課

必修化された臨床研修において、研修医が適切な指導体制の下で研修を実施するための経費として、170億円（対前年度12億円減）を確保するものである。

- 平成18年度予算案 170億円 $\left(\begin{array}{l} 17年度 \quad 182億円 \\ 16年度 \quad 171億円 \end{array} \right)$
 （公・私立の大学病院、臨床研修病院を対象）

○ 内 容

- (1) 教育指導経費 142億円 $\left(\begin{array}{l} 17年度 \quad 135億円 \\ 16年度 \quad 111億円 \end{array} \right)$

- ・ 指導医の確保
- ・ プログラム責任者の配置
- ・ 研修管理委員会の設置 等
- ※16年度には旧制度分21億円を含む

- (2) 導入円滑化特別加算 28億円 $\left(\begin{array}{l} 17年度 \quad 47億円 \\ 16年度 \quad 60億円 \end{array} \right)$

- ・ 宿日直研修事業費
- ※重点的に補助するための見直しにより19億円減額

(参考)

	平成16年度予算額	平成17年度予算額	平成18年度予算案
合 計	171億円	182億円	170億円
教育指導経費	90億円	135億円	142億円
導入円滑化特別加算	60億円	47億円	28億円
旧制度分	21億円	—	—

9. 臨床研修指導ガイドラインについて

【国立保健医療科学院ホームページ】

新医師臨床研修制度における

指導ガイドライン

【お知らせ】

本ガイドラインは、新医師臨床研修制度に則った研修をすすめる上で、各臨床研修施設の指導医の方々を支援する目的で作成されました。順次、内容を更新してまいります。皆様のお役に立てましたら幸いに存じます。ご質問、ご意見などは、kenshu-gl@niph.go.jpまでメールでお問い合わせくださいますようお願いいたします。

尚、第4章 到達目標の解説、I 行動目標の解説、4. 安全管理の詳細版はこちらをご覧ください。<http://www.niph.go.jp/soshiki/seisaku/anzen/resident.htm>

【更新履歴】(抜粋)

- | | |
|-------------|--|
| 2005年 4月14日 | 「第4章 到達目標の解説、I 行動目標の解説、4. 安全管理」を掲載いたしました。 |
| 2005年 7月28日 | 「はじめに、本編(第1章、第3章、第4章 I)、資料編」を掲載いたしました。 |
| 2005年 8月25日 | 「第4章 II 経験目標の解説」
1. 経験すべき診察法・検査・手技(一部)
2. 経験すべき症状・病態・疾患(一部)
3. 特定の医療現場の経験(全部)
を掲載いたしました。 |
| 2005年10月 4日 | 「第2章 指導方法」を掲載いたしました。 |
| 2005年11月 2日 | 「第4章 II 経験目標の解説、1. 経験すべき診察法・検査・手技」に「臨床病理検討会(CPC)レポート」を掲載いたしました。 |
| 2006年 1月16日 | 「資料編」に、「診療ガイドラインの考え方と活用のポイント」を掲載いたしました。 |
| 2006年 1月23日 | 「資料編」に、「新臨床研修医オリエンテーションプログラム ー特にコ・メディカル研修についてー」を掲載いたしました。 |

● お問い合わせ >> MAIL

平成17年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業
新医師臨床研修制度における研修医指導に関する研究班
(主任研究者：水嶋春朔、国立保健医療科学院人材育成部長)

問合せ先：kenshu-gl@niph.go.jp

〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6 国立保健医療科学院 人材育成部

第2章 指導方法（第2章全体PDFファイル 581KB）

I 理論編

学習の目標と方略

1. 望ましい学習活動の特徴
2. 教育目標の分類
3. 学習方略
4. SPICES model

臨床教育の特徴

5. 臨床教育の7つのポイント
6. 臨床教育の6つの技法
7. 指導医の役割
8. 医療における過誤可能性

フィードバック

9. 望ましいフィードバック技法
10. 「事実」と「意味づけ」と「一般論」

医療面接

11. 面接技法を学習する必要性
 12. 患者に対する医療者の態度類型
 13. 共感の伝え方
 14. 人的資源としての標準模擬患者
- #### プライマリ・ケア
15. プライマリ・ケアの概念整理（日本）
 16. わが国の一般住民における健康問題の発生頻度と対処行動

II 実践編

1. 指導方法の実際
2. 研修医向けカンファレンスの実際
3. シミュレーションを利用した教育
4. 臨床現場での教育方法
5. 指導の実例

第3章 評価方法（第3章全体PDFファイル 459KB）

I 評価の理論と方法

1. 教育評価
2. 教育評価の原則
3. 教育評価の方法
4. 評価が持つ属性（5条件）
5. 測定しようとする行動と評価方法
6. 形成的評価と総括的評価
7. 客観的臨床能力試験（OSCE）
8. 態度・習慣・技能の評価
9. 臨床研修における情意領域（態度）の評価
10. 360度評価
11. ポートフォリオ評価

II コンピテンシーモデルを用いた「行動目標」の評価

1. コンピテンシーについて
2. 医療人として必要な基本姿勢・態度
3. 評価項目作成の実際

